



木曽林務課だより

11月

空が高く感じる10月の秋晴れの中で、大桑中学校と南木曽中学校の1年生が体験した森林整備を紹介します。

大桑中学校、南木曽中学校の森林整備体験を紹介 ～村有林や学校林で中学生が汗をかいて森林・林業を知る～

大桑中学校と南木曽中学校では、毎年、森林を育てる地道な作業やその大切さについて理解を促し、自然あふれる「ふるさと」への郷土愛や勤労観を育むため、の総合的な学習の時間を活用して、地元町村、森林組合、団体等が協力して指導にあたり、森林整備体験を実施しています。

10月15日は、大桑中学校の活動です。大桑村野尻の10年生ヒノキ村有林でのこぎりを使った除伐を行いました。大桑村役場産業振興課、木曽南部森林組合、木曽森林管理署南木曽支署、地域振興局林務課の職員が各班に付いて指導し、生徒たちは、のこぎりの使い方やどんなものを切るかなど教わりながら約2時間、作業に汗を流しました。

慣れない手つきで、植えた木の成長を邪魔しているアカマツや広葉樹を伐採している生徒たちは、10年前に木を植えた先輩たちの思いを引き継いでいます。

午後は、除伐した木の小枝を学校に持ち帰って、自分だけの鉛筆を製作しました。



村有林での除伐作業



除伐作業後の状況



自分だけの鉛筆づくり



10月27日は、南木曽中学校の活動です。国有林と分収造林契約を結んだ学校林の34年生ヒノキ林の間伐を行いました。生徒たちは、事前に間伐の意義等を学習しており、当日は、南木曽町森林組合の職員がチェーンソーを使って伐採のデモとともに、受口や追口の伐り方、掛かり木になった時の処理方法など安全な作業の進め方を学習しました。

その後、南木曽町林業研究クラブ会員、南木曽町森林組合職員、町山林委員、地域振興局林務課職員等の指導の下で各班に分かれて、実際に伐採作業を行いました。



伐採方法、掛かり木処理のデモ



生徒による伐採作業



生徒の皆さんは、のこぎりの使い方、倒す方向、逃げる方向、切り口の入れ方などを教わりながら、伐採を実践し、ヒノキを自分たちで倒す瞬間をしっかりと体験しました。この間伐作業に午前中から午後まで約3時間半汗を流しました。

どちらも作業体験も安全に終了することができました。今後もこのような作業体験が継続していくことを期待します。



間伐木の枝払い作業



間伐木の輪切りを持ち帰りました。